

「ありがとう西高！」新聞

Mail : nishikouarigatou@gmail.com

twitter : @nishiko_arigato

Hashtag : #ありがとう西高

発行元：「ありがとう西高！」実行委員会 広報室

母校、大宮西高に感謝と敬意

思いを形に、実行委員会発足にあたって

私たちの母校、大宮西高は、来年度を境に、中高一貫校へと生まれ変わります。これを機に、お世話になった西高に恩返しができないかと、卒業生有志により「ありがとう西高！」実行委員会を発足いたしました。

本紙を通じ、卒業生、ならびに西高に関わる皆さまに向け、情報発信のひとつの形として、私たちの活動や現在の西高の様子などをお届けできればと思います。

「ありがとう西高！」実行委員会発起人ご挨拶



「ありがとう西高！」実行委員会 栗原俊明

我らが母校である大宮西高校。

振り返れば部活動中心の生活で勉強はそこそこ、文化祭や体育祭などの行事もあくまで人並みというただただ平凡な学校生活ではありましたが、今も変わらず青春の1ページとして胸に刻まれています。

卒業後は特段の関わりは持たずに来たものの、「中等教育学校」という新たな学校に生まれ変わろうとしている母校の話聞き、気がつけば周りにいた同級生に声をかけ集まりを持つようになっていました。

その後、少し時間はかかってしまいましたが学校含め様々な関係者にご相談させていただき、母校の新たな門出を応援する気持ち、そして歴史上のものになってしまう「大宮西高校」へ感謝と敬意を払う意味を込め、この「ありがとう西高！実行委員会」を組織する運びとなりました。

残り少ない時間ではありますが学校と、今この瞬間も西高の生徒として時間をすごしている後輩たちのためにも、微力ながら何かお手伝いできればと考えております。

最後に、この実行委員会が再会したOB・OGの皆さまの交流の礎となるように、その交流を通して「大宮西高校」という名前がいつまでも語り継がれるように、という想いを込めてご挨拶とさせていただきます。

ありがとう大宮西高校！

平成5年卒業生 栗原俊明

いざ西高祭へ

来年度、大宮西高校は、埼玉県初の中等教育学校となる大宮国際中等教育学校に移行し、その五十年余りの長い歴史は幕を閉じることになった。これを機に卒業生有志が集まり、母校への感謝の思いを込めて「ありがとう西高！」実行委員会を結成した。同実行委員会は九月に行われる文化祭にイベントを出展する。

実行委員会メンバーの顔ぶれは経歴や世代も様々で、地元の商店街で働く者、都内のIT企業に勤める者、家庭では大学生の子を持つ親など、一見すると接点のあまりなさそうな、ごく普通の卒業生が集まっている。しかし、お世話になった母校に何か恩返しをしたいという強い想いは共通であり、これが活動の柱となっている。

この想いを何らかの形で表現しようと、実行委員会は定期的に会合を開き、日頃、西高を支える先生方や同窓会にも意見をうかがうなど、昨年度から時間をかけて関係各所と協議を続けてきた。その結果、西高に関わる方々の理解のもと、今回、文化祭への出展が実現する運びとなった。

催し物の内容としては、それぞれ卒業生で、「大宮西高伝」の題字制作を担当していただいた漫画家でさいたま観光大使のあらい太郎氏らが参加するトークセッションや、レーザークラフト作家の戸塚健一氏らによるワークショップ、ピアニストとして世界で活躍中の丸山薫氏による演奏などを予定している。

西高の文化祭である「西高祭」は九月七日、八日の二日間（一般公開は八日のみ）開催される。

西高の現在とこれから

新校へ向けての工事は一部、先行して始まっている。工事は前期と後期に分かれ、来年二月までの前期工事では旧体育館跡から食堂跡にかけて前期課程（従来の中学校に相当）で

学ぶ生徒たちが使う校舎が完成する計画だ。その後始まる後期工事では旧校舎も解体される予定だが、重層体育館などの一部設備は新校に引き継がれる。

大宮西高伝

好きなことに明け暮れた、西高時代

あらい太郎さん（漫画家、ラジオパーソナリティ）

今回からスタートするシリーズ「大宮西高伝」。このコーナーでは、現在活躍する大宮西高卒業生の素顔に迫っていく。

第1回目は、漫画家、ラジオのパーソナリティなど、多方面で活躍している、あらい太郎さんにスポットを当てた。

あらい太郎さんのルーツの一端である、大宮西高に在学していた頃の思い出と、卒業後、現在に至るエピソードをうかがった。

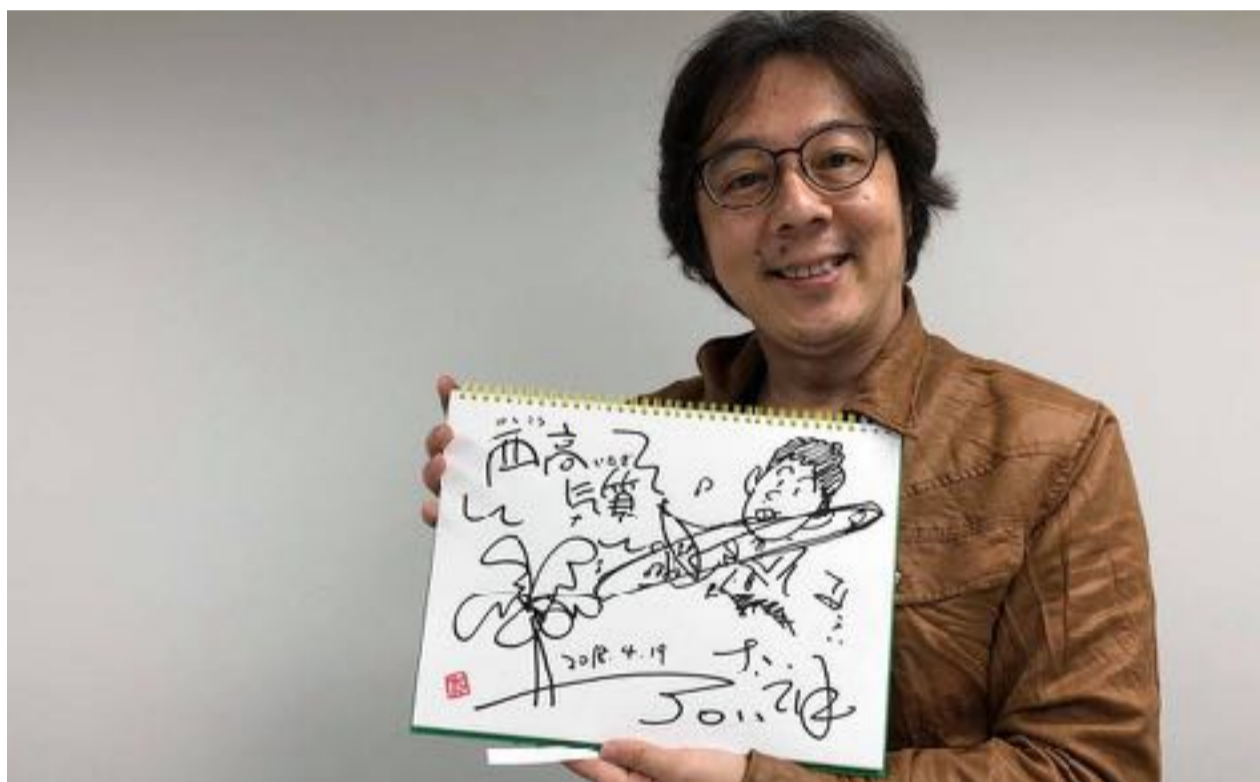
あらいさんには、このタイトル「大宮西高伝」を本紙のために書き下ろしていただいた。この場を借りて、御礼申し上げます。

“漫研”に入りたいと 大宮西高へ

高校受験を控えた中学時代、あらいさんが大宮西高を選んだのは、明確な理由があったという。それは「漫画同好会（当時）があった高校が、この地域では西高しかなかったから」。「もちろん学力と照らして（見合ったところ）という前提はありますよ」。笑顔がこぼれた。

小さい頃から絵を描くことが好きだったというあらいさん。なるほど、今の職業に通じるルーツは漫画同好会で培われたのだろうか。

実はあらいさん。高校入学前の中学3年間



直筆のひと言メッセージを掲げるあらいさん。「西高気質」は、ご自身が作曲した吹奏楽曲に由来する。

は、吹奏楽部でトロンボーンを吹いていたという。その縁もあって、西高に入学後、吹奏楽部から声がかかる。同級生の神田くんと見学に行くと、経験者で、しかも不足している男子部員と言うこともあり、先輩からの熱烈的な勧誘を受ける。根負けしたあらいさんは、漫画同好会との「兼部」を条件に入部することにした。

“漫研”入部も、 吹奏楽の道へ

あらいさんに付き添った神田くんも、先輩からの誘いの声がかかる。神田くんは「付き添いに来ただけ」と頑なだったが、「もし、やるとしたらどの楽器？」という先輩の問いに「トランペット」と答えたことで、なし崩し的に吹奏楽部への入部が決まったそうだ。

「今でも、たまに吹いてるんじゃないか

なあ」。3年間、同じ部活で過ごした友人に思いをはせた。

あらいさんは約束通り、しばらくは吹奏楽部と漫画同好会を掛け持ったものの、それぞれの部活で、発表会に向けて本格的な活動が進むにつれ、「このままだと、ついてこれないかもしれない」と、どちらの部活の先輩からも、やんわりと「一本化」を迫られる。結果、吹奏楽部に絞って活動を続けたそうだ。

それでも、あらいさんは絵を描くことはやめてしまったわけではないようだ。休み時間の黒板や、授業中の教科書やノート隅に、先生の似顔絵を描いていたという。絵に関しては、自主的な活動を続けていたということだろう。自身は目立たない生徒だったと語る、あらいさん。良くも悪くも絵を通じて、先生たちに顔を覚えられていたと苦笑する。

絵も音楽も、とにかく好きなことに明け暮れた、のびのびと充実した高校生活が伝わってきた。（次回へ続く）